

「イラストレイテッド外科手術 膜の解剖からみた術式のポイント」

兵庫県立尼崎病院院長 牧野 尚彦 著
兵庫県立尼崎病院・外科 篠原 尚

大阪医科大学講師・一般・消化器外科

磯 崎 博 司

本を開くと、まず臨場感あふれるすばらしい手術イラストの連続に見とれてしまう。外科医が描いたものとは信じ難い。イラストは余分な線を極力抑えてあり、しかも精緻でとても目に心地よい。フランスの解剖学の実習書「Cahiers d'Anatomie」にも似た図柄により、手術に必要な腹腔内の膜の構造と隣接臓器との関係、手術操作のポイントと手順が容易に理解できる。

最もこの手術書の特徴づけていることは、“術者の目”から視野が描かれていることと、手術を行っている“術者の手”あるいは“助手の手”が図の中に描き入れられていることであ

る。したがって、その手術を術者として経験したものにとっては見慣れた術野の連続であり、“手”が描かれているのでつい自分が手術をしているような錯覚に陥り、頁を繰るごとに手術が進行して、気がつくともう最後まで読んでしまっている。今までに類のない手術書と思う。

著者が卒後5年目の外科医と聞いて更に驚いた。虫垂切除術、ヘルニア、胆石、胃全摘術、直腸切断術、肝切除から臍頭十二指腸切除まで、消化器外科領域の定型の手術が網羅されているからである。しかし、これらはすべて著者の実地の体験を図化したものだそう。また、共著者

であるオーベン先生による“ポイント MEMO”には更に高度な手術のコツや心構えのエッセンスが織り込まれおり、読者を飽きさせない。絶妙の師弟コンビから生まれた秀作である。

本手術書の最大の特長はイラストを通じて手術の疑似体験学習が行えることであり、これから手術を習得しようとする若い外科医には絶好の入門書と言える。一方、ベテランの外科医にとっても知識を整理し、後輩を指導するうえで重宝する手術書と思う。

● A4 336頁 図418 1994 定価
7,931円(税込) 〒400

医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)